

特集

救急腎療を 究める

急性腎障害は、救急および集中治療領域において高頻度に生じる臓器障害であること、また、集中治療を必要とする重症患者の強い予後悪化因子であることが、数多くの疫学研究で報告されています。

一方で、とくに救急外来での診療においては、急性腎障害に対してどのようなアプローチをとるべきかについて、あまり優先度高く扱われていない印象です。“急性”腎障害といえども数時間単位の時間的余裕があり、現実的には呼吸不全・循環不全への対応が優先されること、そして腎障害に対する即効性のある効果的な治療法が存在しないことが、その理由として考えられます。実際、『救急医学』を冠する本誌においても、実は「腎」をメインに据えた既刊特集がないことも傍証といえるでしょう。

しかしながら、中長期的な生命予後を規定する臓器障害として、腎障害のインパクトはきわめて大きく、外来対応を含む救急診療の段階から先手を打った対応ができるのであれば、それを追究することは重要です。そこで今号の『救急医学』では、その後の臓器障害の進展を念頭に置いた救急診療が実現できるよう、「腎」に焦点を当てて、評価・診断、病態理解、そして治療法について解説する特集を企画いたしました。

エキスパートの先生方による解説を通じ、本誌読者の方々に腎障害の診療をより“究めて”いただくことを期待しております。

特集企画ゲストエディター

東京大学大学院医学系研究科救急・集中治療医学

土井 研人